早期景気観測調査　新潟商工会議所管内　４月分　各業界からのコメント

◎建設業

・コロナウイルスの感染状況が悪化している中、いろんなところで緩和され人々の動きは少し活発になってきている。しかし今後も感染者が増えることが予想され、なかなか先行きが読めない状況である。
・コロナウイルス感染が日本列島を襲ってから 2 年が経過し、未知のウイルスを闇雲に怖がるところから少しずつ脱却し、受注も上向きになってきた。
・従来のオミクロン株からステルスオミクロン株への置き換わりが進んでいる中で、感染者数は依然として減少には転じていない。
・まだまだマスクを外しての「飲食を伴う会合」開催には高いハードルが存在している。
・工事材料・機械本体の大幅な価格 UP が続いている。そのような状況下、機械類の中古再生品の問い合わせが数件来ているため、今後は古物商的商法も考えている。
・コロナ禍による東南アジアの生産、物流への影響により一部資機材の調達困難が続いている。
・輪をかけて円安、原油高を反映し、建設資材の高騰も続く。今後、発注者の価格の受入、計画変更の動向が業況に関する重要な課題となる。
・政府主導の総合評価落札方式の賃上企業加点の制度が明確になりつつあり、ひとまず一息ついている。

◎製造業

・まん延防止等重点措置が解除され、新潟市の感染者が増加している。小学校や保育園等での感染が広がることにより、社員（保護者）の休業が、かわるがわる発生し、社員数が充足していたにもかかわらず人手不足状態に陥っている。
・円安による輸入原料とフィルム関係の値上げ要請がきている。燃料関係や電気料金も大幅な値上げが実施され、経営環境としては悪化の一途をたどっている。
・県外往来が可能になり旅行が楽しみな季節を迎えた反面、毎日のように感染者が出ている状況。
・原材料全てが高騰し、売上に転嫁できず、中小零細企業の経営はどうなっていくのか不安である。
・急激な鋼材の値上がりが続き、受注済みの物件に価格転嫁ができず採算が悪化している。
・原材料高騰が販売価格に転嫁できない。
・仕入材料、機器、部品の値上げが始まった。
・原材料高騰が企業努力で吸収できない範囲となり、この 4 月より製品価格への転嫁をお願いせざるを得ない状況となった。
・原材料の高騰、特にニッケルの価格はかなり上がっている。4 月以降も上がる見通しである。弊社は材料費が経費の半分以上を占めるため、大きな問題になる。
・原油高騰、原材料高騰により、仕入資材全てと言っていいほど値上げラッシュとなっている。4 月からか、遅くても 6 月からの値上げ通知が来ている。
・半導体不足によって受注堅調な自動車産業が生産減に追い込まれている状況で、少なからず影響を受けている。

◎卸売業

・コロナ前までの回復を願っているが、次の第 7 波の懸念もあり、なかなか景気、業況は回復しない。

・歓送迎会等で需要が増える月であるが、コロナ感染のリバウンドが見られ、売上、利益の確保は依然として厳しい。
・消費者の二極化がはっきりとしてきた。Z 世代、または高所得者による時計や高級車などの高額品の需要、中間販売者が少なくなった。
・原料の高騰や不足により仕入価格が大幅に上昇している。毎日どこからかは値上げのお知らせが入る状況。
・水産物は日本勢の買い負けが顕著である。原材料高騰、品薄が慢性化している。
・仕入単価の値上傾向が顕著である。
・公共資材端境期のため引き合い件数減。例年より新年度期工事発注件数が少なく感じる。

◎小売業

・まん延防止等重点措置が発令されると売上が減少する。
・未だ半導体不足とコロナウイルス感染症の影響で、新車の生産供給不足が続いている。
・コロナ禍での 2 年半、本業での落ち込みを異業種の商品売上等で補い、対前年比 100%前後を継続させてきたが、3 月はかなり苦戦した。要因は、業況の悪化に有効な対策が確立されないこと。
・これまで該当しなかった各種補助金等が今後も必要にならないよう、厳しい環境ではあるが打開するのみ。
・コロナだけを考えると、まん防がなくなっただけ昨年の水準に近くなると思う。
・ウクライナとロシアの戦争による影響は、これから生活用品関係の値上がりにより、必要最低限の物しか買わないなどの悪影響が出てくると思う。
・仕入単価の増加は、すべての商品の値上げに通じるため、ますます安いものを選ぶようになり売上単価が下がる要因になりそう。戦争だけでも早く収束することを願う。

◎サービス業

・第 7 波の拡大とウクライナ情勢の今後の展開が懸念されるが、当面の受注に大きな影響は無い。
・まん延防止措置が解除されたが、状況は変わらず。お家時間が長引いて、外に出にくくなっているのもあるのではないか。
・ワクチン接種も 4 回目の案内が新潟市から来ているが、状況は変わっていない。それでも日中はそこそこ人の流れがあるものの、夜間はほとんど人が歩いていない。
・新型コロナウイルスの新潟の感染者数がなかなか減少しないため、多人数の集まりも復活しないが、ワクチンの普及により昨年一昨年と比べるとイベントは少しずつ増えてきている。ただ、2、3 年前と比べ売上は減少しているため今後は支援金の力を借り、何とか乗り切りたいと思う。
・人の動きが少しずつではあるが増加している。これに伴い売上も増加しはじめた。しかしながらまたしても第 7 波の予感。新型コロナもロシアの戦争も影響は莫大であるが、どうしようも無く、ただただ平常化を待つのみ。
・まん延防止等重点措置が解除されたところ、また感染者数が増加してきている。通常であれば春の新入社員の歓迎会や花見で人が動く時期だと思うが、依然として厳しいと感じる。
・東北はコロナも増加傾向でなかなか商談ベースにのれない。
・社内での新型コロナの感染者や濃厚接触者の発生は少し落ち着いてきたものの、3 回目接種の副反応による体調不良者が連日のように発生している。

・新入社員が入り、人手不足感は一先ず緩和されるが、コロナの第 7 波が懸念される状況で見通しは楽観できない。イベント等開催に期待するところである。
・売上自体は短期的には変わらず推移すると考えられるが、新型コロナウイルス感染の影響で徐々に自社を取り巻く状況が悪化することにより、長期的には維持するのが難しくなると思われる。
・ウクライナとロシアの戦争の影響で材料費の高騰をはじめ、4 月は受注が少なく、5 月の連休明けからどう動いていくか不安である。
・建築設計業界は半導体の不足から瞬間湯沸かし器、トイレ器機などの現場搬入が遅れ、困惑している。
・原材料の値上げなどで建築設計予算が急騰し、施主様との予算取りが苦しい状況となっている。
・業務用の資材などの原材料が高騰している。
・感染並びに景気については幾分か回復傾向が見られたが、4 月に入ってからは諸物価の高騰と戦争の影響が国内市場へ更なる悪影響をもたらしている。今後は、こうした現象が世界を巻き込んで悪化の道を進むと予測している。
・売上は順調に回復してきていたが、新型コロナウイルス感染拡大で物流、製造が停滞したことに加え、ロシアのウクライナ侵攻に伴いエネルギー高騰の影響、商材・食材の品不足が原価を押し上げている。GW 明けまでは何とか手配できている食材も入手困難な物が出てくる可能性がある。特に北海道の鮭漁でロシアとの協議が滞り、この秋のイクラの新物に多大な影響があるかもしれない。
・消費者も各種値上げにより財布の紐が硬くなりつつある。ただ「地域のお店応援商品券」第 3 弾で消費活動が上向いてくれること、そして GoTo イートの再企画に大きな期待をしている。